

ポスドク終了報告書

大滝謙太

University of Hawaii at Manoa (UHM) でポスドクを始め2年半、ようやく目標としていた Lab manager のポジションを獲得しました。今回の報告書ではそれまでの経緯について書きます。

UHM Advanced Electron Microscopy Center で Lab manager になることはポスドクを始める時から可能性として挙げられていて、当初の予定ではポスドクを始めてから6ヶ月後くらいに Lab manager へと昇進することになっていました。しかし、部門の予算変更と予定よりも多いスタッフの雇用で、Lab manager のポジションを開くための費用がなくなってしまいました。そんなこんなで2年が経ち、私の OPT の三年目が始まりました。この段階で私は Green card をとるプロセスをはじめ、新しい仕事探しも始めていました。ただ、ハワイにまだ残らなかったのも、それらの情報を盾に、昇進の交渉を再開しました。私の PI はずっと昇進を実現するのをサポートしていて、このポジションを得られないと visa の期限が切れるという理由付けで部門のディレクターに交渉しました。(UH はポスドクには H1B をサポートしないのですが、staff 以上の役職には H1B のサポートをします。)

これらの作戦が上手く働き、2020 末に公式に昇進することになりました。それが決まってからは驚くほどすべて迅速に動いて、2月1日2021年に Lab manager を始めることができました。すべてが予定通りにいけば、4月の初めには H1B を受け取ることができることになっています。

Lab manager になったからと言って仕事任務はあまり変わりません。ポスドクの時から manager の仕事をしていたので、言ってみれば仕事内容の割には十分な給料をもらっていなかったと言えるでしょう。

ポスドクを終了したので、その経験をここでまとめてみたいと思います。ポスドクは PhD みたいだけれど、PhD プログラムでした時よりもより早く、より多く成し遂げるということをよく聞きますが、私にとってもまさにそのような感じでした。PI の研究分野が隕石や惑星なので、非常に scientific な環境に置かれました。ただ、個人的に一つの分野に集中するのがあまり好きではないので、PhD の時よりもより広く違う分野に手を伸ばしました。私自身は engineer なので、もっと実用的なプロジェクトを求めて、会社や engineering department 等に声をかけて、多数のプロジェクトを持ってきました。電子顕微鏡の facility で働く身として、外部収入を必要があり、その面では私のポスドクは academia と industry の間にあったように思います。

今振り返ると自分の PhD がどうして 4-5 年かかったのだろうかと思議に思います。5 年間ずっと研究をしていた他に新しいことを学んでいたからではありますが、PhD を得るにあたって自分が確実に成長したことを実感できるのは非常にいい気分です。

現在 PhD プログラムを進行している方々も、PhD を取得した時の自分の成長具合を楽しみに残りの年月を楽しんでください。

大滝